



Metro
Edmonton
Japanese
Community
School

コミュニティースクールニュース 2008年3月号

THE ASSOCIATION OF METRO EDMONTON JAPANESE COMMUNITY SCHOOL

代表者 清水 聡(会長) 10636-148St, Edmonton, Edmonton, Alberta, T5N3H1 TEL: 452-6093

借用校舎 RICHARD SECORD SCHOOL 4025-117 St

URL: <http://www.ualberta.ca/~tkin/MEJCS-index.htm>

<会長からのメッセージ>

道路脇の街路樹の枝に新芽が見え始め、日々暖かくなり過ごしやすくなって来ました。家や車の窓ガラスを大きく開けてみましょう、きっと春の足音が聞こえてきます。

僕が役員会に復帰して2年がたちます。そこで今回はこの2年間の出来事を振り返ってみたいと思います。この2年間の出来事には我々の補習校が直面している、またはするであろういろいろな問題を暗示していると思われるからです。

僕は2003年から2005年まで評議員として文化事業部を担当していました。文化事業部というのは運動会や、学芸会などの企画運営を担当するセクションで、忙しくはありましたが、楽しくもあり、やりがいもありました。ともかく2年の任期を終えると、評議員を辞任し、一会員として運動会や学芸会をお手伝いしました。しかし、2006年春、当時会長だった大沢さんより「役員のみなり手がいないので、すまないが副会長をやってくれないか」と電話があり、「僕は人前で話をしたり、書類仕事は苦手ですよ」というと、当時副会長を務めていた大場さんに会長になってもらうので、大丈夫との返事、任期が終わったばかりの僕に話を持って来るのだから、よっぽど困っているのだろうと、つい引き受けてしまったのです。

2006年4月より、新役員として承認され、新しい役員会が発足しました。デボンアンガーデンや運動会、学芸会など無事に行われたのですが、2学期の半ばごろ、会計担当の役員より「カジノボランティアの予定が3ヶ月ほどずれている、このままでは予算が足りない」との報告があり、それを受けて、役員会ではいろいろ話し合ったのですが、結局、予算についての臨時説明会、アンケート、会長辞任、臨時総会、など皆さんご存知の騒動となったのです。

また、このときの騒動が発端となり、コンフリクトオブインタレストや、教師の待遇、保護者の役割、課外活動の見直し(サマーキャンプ等)など今まで見過ごされてきた問題が新たに見直されることとなったのです。

そして、以前から問題になっていた補習校借用校舎移転、校内のいたずら、さらに、常田先生を含め、6人の先生が2007年度いっぱいまで辞職されるので後任探しと、月に一回の役員会ではとても間に合わず、毎週のようには役員会を開いていた時期もありました。

結局、ママさん先生をはじめ、有志の方が集まってくださり、先生の後任はきまったのですが、常田先生の後任の校長先生がどうしても見つかることが出来ず、年度末になってしまいました。とても残念に思うとともに、自分の無力を痛感しております。

さて、この2年間の事を駆け足でさっさと振り返って見たのですが、皆さん気がついたことはありませんか。僕はいくつか気になった事があるので、それをこれから書いてみたいと思います。

まず、人員不足(役員不足、教師不足、など)役員、ボランティアなど、いつも同じような方々がやっています。もっといろいろな方々に協力していただきたいです。

カジノボランティアについて、父兄の方の中には誤解している方もいるようですが、このボランティアは補習校の経費をまかなうために行なっているのではなく、生徒の授業料の負担軽減のために行なっております。カジノをやらなければ、生徒一人につき毎月90-100ドルくらいの授業料になります。全員平等に、どのような形であれカジノに参加する事が大切なのです。

課外活動などですが、上手く言っている例を挙げますと、プレイスクールでしょうか、父兄主導でとても上手に運営されています。できればサマーキャンプも同じように父兄主導で運営できないでしょうか? 去年のサマーキャンプは父兄主導で上手くできたし、来年度へ余剰金を残してもあるそうです。まだまだ改善の余地はあるのでしょうか、これを機会に長く続く企画になってほしいですね。

父兄、保護者の役割ですが、我々の補習校にとって、これはとても重要な問題です。

皆さんもご存知のように、われわれの補習校は父兄で組織される後援会によって運営されております。入学時に説明を聞いたと思いますが、父兄は補習校主催のさまざまな行事にボランティアとして参加し、生徒を毎週金曜日に補習校に連れてくる。生徒の宿題を手伝い、毎日日本語で生徒と話し、いろいろな物事を説明する。そうです。この学校はもしかすると生徒より親のほうが大変な学校なのかもしれません。

また我々の補習校は「日本語補習校」ですので日本の教科書を使用し、日本の国語教育プログラムに沿って日本語を教えています。エドモントン補習校は週に3時間だけしか授業がありませんし、生徒たちは毎日カナダの学校に通っています。カナダに暮らす生徒たちと、日本国内の生徒が同じレベルのプログラムで日本語を学んでいるのです。エドモントン補習校の毎週3時間の授業だけでは生徒たちに必要な日本語教育はできないでしょう。そこで重要となってくるのが宿題です。毎日日本語で親と一緒に宿題をやったり、日本語で会話することが大切なのです。そして言葉の使い方や微妙な違いなどを教えてあげてほしいと思います。我が校の卒業生の父兄は学校2割、宿題8割などというおられました。海外で暮らす我々のような家庭は、親の努力なくして日本語の維持はできないのです。またこの時期には進級するかし

ないかで父兄、教師間でたびたび話し合いが行なわれると思いますが、無理に進級してしまうと、進級したクラスの授業についていけず、せっかくそれまで積み重ねてきた日本語力を無駄にしてしまう事にもなりかねません。無理に進級したクラスで足踏みするより、今の学年をしっかり理解してから、一步一步進級したほうが将来的に本人の為になるのではないのでしょうか。この事は担任の先生と納得するまで話し合っ、慎重に決定していただきたいと思います。そして先生方も生徒一人一人にあった助言をしてくださるようお願いいたします。

最後に、「今までの補習校とこれからの補習校」という事をお話したいと思います。

2007年度は「コンフリクト・・・」や「値上げ問題」「教師の待遇」など補習校本来の教育に関する問題ではなく、運営面での問題も多く提示されました。確かにこれまでの補習校は父兄や先生方のボランティア精神に依存し、かなりの部分を個人的に負担してきていたとおもいます。10年ほど前の補習校は、カジノボランティアも無く、経済的にも厳しい状況にあり、ボランティア精神に頼らなければ運営できなかつたでしょう。しかし、現在はカジノボランティアがあり、経済的にはかなり楽になってきています。

経済的に楽になったからといって、すべてをお金で済ませばよいのでしょうか。

数年前の補習校は、まさにバブル景気に沸く日本のごとく、あれもこれもにお金を使い、結局、カジノの開催時期がずれただけで、予算が赤字になってしまうという事態になってしまいました。これを受けて2007年度はけちけち財政でやってきました。他の補習校は会費授業料も高いけど、土曜日、一日授業があるとか、授業料と会費を払えば後は生徒を学校にドロップオフするだけの学校もある、などと言う話も聞きますが、我々の補習校と同じ経営形態や、授業形態をとっている補習校は他には無いですし、他所の補習校のまねをする必要もないでしょう。もともと多くの事を父兄のボランティアで賄ってきた学校ですので、そのボランティア精神はそのまま残し、必要な経費を必要とるころにあてることが肝要だと思います。お金だけで経営する学校ではなく、我々の補習校は、生徒のために集う父兄が創った学校であり、学校運営は父兄のボランティアと会費、授業料で賄い、我が校の独自性を持って運営されるべきであると思います。そのためには父兄一人一人の自覚とボランティア精神が必要なのではないのでしょうか。

後援会長 清水 聡



＜校長からのメッセージ1＞

春分も過ぎて、日差しがいつそう強くなってきました。春はすぐそこまで来ているように感じます。早いもので、三学期ももう終わりとなりました。

今月もいろいろな行事がありました。1週目には、1日体験入学・入園がありました。わずかな時間ではありましたが、プレスクールの生徒6名が、年中クラスを体験しました。プレスクールで慣れているのでしょうか、どの生徒もクラスでの活動をよく理解しているように見受けられました。同様に、年長、小1に上がる生徒たちも、上のクラスを体験した結果、進級することに自信を持たうよう安心しました。新学期には、どの生徒も問題なく、お友達と一緒に楽しく勉強を始めることができるでしょう。

2週目には、恒例の弁論大会がありました。これまで、土曜日の午後にEJCA会館で行うことが多かったのですが、今年はより多くの保護者の方々に聞いていただけるように、学校の体育館で、金曜日の授業時間中に行いました。生徒が高学年に達すると、どのような主張をし、どのような日本語を話すようになるのかを知っていただく良いチャンスであったのですが、低学年の保護者の方がとても少なく、残念でした。それでも、いつもながら、たいへんユニークな視点に立った発表が多く、私達を楽しませてくれました。審査員の高橋先生、坂口先生、清水さん、星さん、お世話になりました。また、いろいろと準備に協力してくださった役員会の皆様、ありがとうございました。

1月以来取りかかってきた、作品集の準備も順調に進みました。3月始めには生徒すべての原稿が揃い、学年代表の方々が中心になって編集をしてくださいました。役割分担によって作業はたいへんスムーズに進んだようです。協力してくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。今年はハードコピーで各家庭に1冊ずつ配られることになっています。きっとご自分のお子さんだけでなく、他のお子さんの作品も楽しんでいただけたと思います。ぜひ手にとって、ゆっくりとお読みください。お子さんの成長の記録になると思います。

この1年間、生徒たちは心身共に一段と大きく成長しました。入学・入園当時、どことなく頼りなげなところがあつた生徒たちも、すっかり学校生活に馴染んで、自信に満ちた様子で過ごすようになりました。勉強の面でも生徒たちは本当によく頑張つて、学力を伸ばすことができたと思つております。28日の終業式では、各生徒に「在学証書」を授与し、年間を通じて一回も休まなかつた生徒には「皆勤賞」を、また、本校の特別プログラム「漢字の達人」で、自分の学年のレベルまで到達した生徒には「特別賞」を授与します。昨年、全校で参加した、「全国書画展」から立派な賞状が届いていますので、これも当日渡す予定です。

今年度も学校の生徒たち皆が無事に過ごすことができました。ひとえに保護者の皆様のご協力のおかげと、教師一同感謝しております。新年度もよろしく願いいたします。

校長 常田いち子

<校長からのメッセージ2>

3月をもって、田端先生、池澤先生、長倉先生、大場先生、私と計5名の教師が辞めることになりました。これまで保護者の皆様にはたいへんお世話になりましたこと、感謝申し上げます。どの教師も、いつかまた何らかの形で生徒のために役立つことができればと願っております。

代わって、4月から新しい教師5名（1名代教として）が本校に加わってくださいます。教師歴が無い方、長い方、いろいろですが、どの方も相当のやる気を持っていらっしゃる事が、教師研修を通して分かりました。新学期からよろしくお願いいたします。

校長の後任は、まだ見つかっていないと役員会から報告されました。私は両親の健康上の理由で、これから日本に滞在することが多くなりますので、これ以上校長職は引き受けることができません。次の方に引き継ぐことができなくて、たいへん残念ですが、4月からの教師会は、当面、経験の長い教師が中心になって運営してもらうことにしました。また、役員会を代表して渡辺さんが、教師会関係のお話をしてくださることになっています。役員会には、一刻も早く、後任を見つけていただくようお願いいたします。

校長 常田いち子



<弁論大会の報告>

3月14日金曜日6時15分より、リチャードセコード校の体育室で弁論大会が開催されました。6年生以上の12名が発表をし、5年生も聴衆として参加しました。

発表者と題名

小学6年生

1. 金 力蔵 「ダラダラの日々#2」
2. 大場 蒔 「大人と子供、いったいどっちが得？」

小学3年生

3. 伊藤 勇希 「日本の体験」
1. 菊池 光 「テザー銃は安全か」
2. 王 芸蓉 「中学生の世界」
3. ザバルスカ ズザナ 「地球の破壊者、ショッピングモール」

中学3年生

1. ジェラード エマ 「私のアートの人生」
2. 植林 あみ 「地震対策」
3. 植林 ちか 「1万キロ旅した猫」
4. ザバルスカ マリア 「この世界を見る目」
5. ザン ジム 「アジア人の主食—米」
6. 王 沖 「ホッケー宣言」

審査には、教師代表の坂口宗さんを審査委員長として、学外からの高橋康さん、後援会代表の清水聡さん、父母代表の星真由実さんの四名が当たりました。四名の審査員が弁論を聞いて内容(15点)、話し方(10点)で評価したものと、教師の当日までの作文への取り組み、弁論の練習などを評価した点数を合わせて、審査が行われました。

発表する生徒たちは、冬休みから何を発表したいか考え、作文を書き、推敲を繰り返し、発表の練習をしてきました。今年は体育室での弁論大会ということで、大きな会場での発表に、緊張感はいつになく高いものでしたが、みなそれぞれ精一杯に弁論を発表しました。今年の弁論は、自分のユニークな体験に基づいたもの、社会や文化に対する鋭い指摘やユーモアあふれた提案など、それぞれ自分の独創性を生かした優れた内容で、聴衆を魅了しました。

審査結果

- 最優秀賞 中3 ザバルスカ マリアさん
「この世界を見る目」
- 優秀賞 中1 ザバルスカ ズザナさん
「地球の破壊者、ショッピングモール」

弁論大会は、日本語学校での勉強の一年間の成果を発表する場です。小さいお子様の父母の皆様、弁論大会は日本語を学んで将来どのような力がつくか知る事のできるまたとないチャンスです。来年は是非聴衆として参加して下さるよう、お薦めいたします。

また、お手伝いくださった父母の皆様、いつもありがとうございます。

弁論大会担当 長倉由紀子



<漢字の達人より>

今年も多くの達人が登場しています。

合格おめでとう！来年もがんばりましょう。

- 1年合格 オーミッド オーリド ヴァンゆうひ
稲毛みづき 川本さくら 元田れい
金かな ロベスみづき 増田りんたろう
山田れな 山本ニコラス
- 2年合格 開出まや 李賀菜 ロベス菜つみ
ウォン ケビン
- 3年合格 伊藤真理奈 滝田圭央 渡辺健太
- 4年合格 松本スコット 山田花鈴
- 5年合格 大場蒔 金力蔵
- 6年合格 伊藤勇希

特別賞（自分の学年まで到達した人）

- 2年 稲毛みづき 川本さくら 元田れい 金かな
ロベスみづき 増田りんたろう 山田れな
山本ニコラス

- 4年 伊藤真理奈 滝田圭央 渡辺健太 松本スコット
山田花鈴
6年 大場蒔 金力蔵 伊藤勇希

漢字の達人担当 近藤 玲

<今年の皆勤賞受賞者>

この1年間、1日も休まずに出席した生徒が全部で7人います。その努力を賞して、対象の生徒には学校から皆勤賞の賞状の他に、\$10の商品券が授与されます。

- 年中 近藤かいま
年長 キャンベル・ライアン
小1 王ポプラ
小2 開出えりか
小4 開出真与、ジャクソン・ジャスミン
中1 王芸蓉

校長 常田いち子



<先生のコーナー>

9月より、本校の先生の自己紹介&クラス紹介を掲載しています。普段は、授業で教室に詰めていらっしゃるため、なかなかゆっくりお話できる機会のない先生方の生の声を聞かせていただけるコーナーです。これを機会に、休み時間にスタッフルームに先生がいらした時などに、積極的に声をかけ、お茶にお誘いしましょう。まずは保護者と先生の絆を深めていくのに役立てていただければ、と思います。

小学2年2組 今野光（こんの ひかり）先生



去年9月から2年2組を担当させていただいてます、今野と申します。カナダに来てから一年半になりました。よろしくお願いします。まだ半年くらいしか生徒のみんなと一緒に勉強をしていないのですが、とても楽しく授業をしています。

みんな元気一杯で、学校へ来るとその元気をもらって帰ります。一人一人が話をしたいクラスで、発言をする時もカー一杯手をあげて、自分の意見を楽しそうに話してくれます。いつもハキハキとお話をしてくれる生徒、元気に手を上げるのに、当てられると恥ずかしがりながらもニコニコしながらお話をしてくれる生徒、そんなみんながとてもかわいくてしかたないのです。みんなに話をしてもらいたいのに時間が少ししかなくて残念です。その限りある時間を有効に使っていくというのが一つの大きな目標です。日本では、講師の経験が多少ありましたが、補習校での授業はいろいろな意味で違った勉強がたくさんあると感じています。

あらためて日本語の美しさ、楽しさ、難しさや大切さ、そういったことを私自信勉強しつつ、それを生徒のみんなに感じて欲しい、日本語を好きになって欲しい、そこから日本語以外にも学ぶということが楽しいということを知って欲しいと思いつつ授業をしていきたいと思っています。国語を教えるという点では初心者です。分からないことがたくさんあります。気づいて下さった方、ご指導のほどよろしくお願い致します。

.....
小学6年 藤本亜美（ふじもと あみ）先生



こんにちは！昨年四月から六年生の担任としてお世話になっております、藤本亜美です。昨年は小学校の先生として教壇に立たせていただいたのも、またカナダに来たのも初めての経験ということで、「先生・カナダ一年生」の年でした。自分自身が学び、吸収すべきことばかりの毎日の中、どれだけ教える側として生徒に還元できていたのかな、と思っています。失敗や試行錯誤の連続でしたが、父母の皆様や先輩の先生方、何より元気な生徒の皆に助けをいただいで、何とか続けることが出来ました。温

かい目で見守ってくださって、どうもありがとうございました。

さて、六年生のクラスは、大場蒔さん、伊藤勇希君、そして金力蔵君の三人で頑張っています。とってもノリがよくていたずら好きな、楽しいクラスです。三人それぞれのいいところはたくさんあるのですが、特に三人に共通していいなあ、すごいなあ、と思うところは、まず「日本語と英語の完璧なバイリンガルである」ところです。三人の国語力は、日本に住む小学校六年生に負けていないくらいにしっかりしたものです。難しい言いまわしも英単語でごまかしたりしないで、どうやったら日本語で、その言葉らしく言えるのかを真剣に考えてから口に出します。英語と日本語のスイッチが、はっきりと区別されているから出来ることなのだなあと思い、いつも本当に感心してしまいます。

もう一つのいいところは、「勉強以外のことも楽しんでいるところ」。三人ともそれぞれ、テニスにピアノ、バイオリンと、学校のほかに色々な習い事をして頑張っています。色々な言葉話せることもそうですが、好きなスポーツをしたり楽器を演奏できることは、生きていることをとって楽しく、豊かにしてくれると思います。ぜひずっと続けてほしいです。

最後に私ごとになりますが、去年は家庭の事情から、カナダと日本を往復しなければならないことが何度もあり、学校の皆様には大変なご迷惑をおかけいたしました。この場をお借りしてお詫びいたします。来年度のことはまだわかりませんが、お世話になることがありましたら、ひきつづきよろしく願います。



<「おめでとう！」コーナー>

- ・平成19年度日本語能力検定試験
1級合格 ザン・ジム
4級合格 松本スコット

- ・第2回日加タイムス読書感想文コンクール
優秀作品賞 ザヴァルスカ・ズザナ
題名：ヴィッキー・エンジェル
著者：ジャックリーン・ウィルソン

本当に、おめでとうございました。また、現在休学中の、清水紗羅さんも、感想文で優秀作品賞を獲得しました。優秀作品賞四人のうち、二人が当補習校からとのこと、本当に頼もしいことです。

<「おめでとう！」コーナーへの投稿のお願い>

「おめでとう！コーナー」は、補習校生徒ならびに会員の学校外での活躍や業績を紹介し、称えていくコーナーです。コンテストで入賞した、所属しているスポーツチームで著しい活躍を遂げた、などなど、いいニュースを募集しています。自薦・他薦どちらでも結構ですので、渡辺までお知らせ下さい。



<ニュースレターについて>

ニュースレターへの記事の掲載をご希望の方は、担当の渡辺までご連絡下さい。投稿の締切りは毎月第三金曜日、発行は第四週です。

<4月の当番>

御注意！リチャード・セコード校のカストディアンの方から、リサイクル・ビンの中にゴミが捨てられていたと伝えられました。当番の方は、ゴミの箱であることを確認してから捨ててください。

3/28(金)	マクレーン、徐
4/11(金)	滝田、岡
4/18(金)	山本(千)、プレス
4/25(金)	王、高

当番の変更がありましたら、お早めにダンウォールドまでお知らせ下さい(437-3457)。

スクールニュース校正
編集

ジャクソン 好子
渡辺

「ヴァイツキ―・エンジエルを読んで」
ザバルスカ・ズザナ
正直言うと、私は読書が大嫌いでした。だ
から、自分から進んで本を読んだり、やるこ
とがないから本を読もうとしたりは全然しま
せんでした。
逆に、お姉ちゃんは読書が大好きです。暇
なときはとても厚い本を読んで、一日で読み
終わるのです。それを知っていたお母さんは、
ある夏私に言いました。「遊んでばかりいな
いでたまにお姉ちゃんみたいに本でも読みな
さい。夏休み中に一冊だけでいいから。」と。
それが私の本への態度を変えたのです。
いやいや次の日、書店にいった私が選んだ
本の名前は、ジャクリン・ウイルソンとい
う、イギリスの作者が書いた「ヴァイツキ―・
エンジエル」でした。
どんな本なのかは良くわからなかったけど、
お姉ちゃんがすすめてくれたし、カバーもお
もしろそうだったので、「よーし！この本を

読んで見せるぞー。」と、なんだかわくわくしてしまいました。

早速読んでみたら、とても興味深い本だとすぐに気がつきました。

美人で明るくて、とても人気者のヴァイツキーと、おとなしくて、地味な印象のジェイドが主人公として出場します。

二人はまったく違うタイプなのに、幼稚園のころから、大の仲良し。朝は、一緒に学校に歩いて、学校では隣どうしに座って、放課後はどちらかの家に行くという誰もがうらやむ大親友なのです。二人は、ずっと一緒に、ずっと親友でいることを約束します。

でもその約束を守ることはできませんでした。なんとヴァイツキーが車にひかれて死んでしまうのです。しかも、二人がけんかしているときにジェイドの目の前で。

ここで、私は、ジェイドの気持ちがとてもよくわかって、とてもかわいそうに思いました。

親友をなくすというつらい思いをしている

ジェイドをウィルソンさんはとてもよく描いていて、本当に泣きそうになる、感動的な、私のお気に入りのシーンです。

そんな中、数日後、親友をなくしたジェイドの目の前に現れるのは、ヴァイツキー本人の幽霊です。でも、幽霊のヴァイツキーは、「自分の代わりにジェイドが死んだらよかったのに、まだ生きてかったのに！私が死んだのはジェイドのせい！」とぼかげたことをいつて、かわいそうなジェイドをうらむのです。ジェイドは、ヴァイツキーにあれこれ指示されて、やさしく声をかけてくれる大人やクラスメイトにもひどい言葉をぶつけてしまう始末です。

この、思いがけない、変わったヴァイツキーとヴァイツキーを信じて自分のせいだと思い込むジェイドの関係がとても面白くて、読書嫌いの私まで本を放さずにいられました。

そして、クライマックスの時点では、本当のお別れの日が来ます。ヴァイツキーは天使に変わって天国にいかなければならないので

す。そのお別れの日、とても怒ったヴァイツキ
ーは、なんとジエイドを車がたくさん通って
いる道路に押し込んで、「自分だけ死ぬなん
て不公平だ！」と叫びます。幸い、誰かがジ
エイドを助けてくれてちよつと安心できるシ
ーンでもあるけど、ヴァイツキーはどうなるの
か予想もつかないのでとてもドキドキする場
面でもありました。

そのときヴァイツキーは自分がやっているこ
とのほうが不公平なのだと気がついて、どう
にか許してくれないか頼みます。

ジエイドは、そんなひどいことをされたの
に、「自分の親友だから、もちろんゆるして
あげるよ」と泣きながら、優しく言い、仲直
りします。

そして、その直後、ヴァイツキーは天国に上
がっていつてヴァイツキーはヴァイツキーとして、
ジエイドはジエイドとしてそれぞれ自分の人
生を生きていくという心温まるハッピーエン
ドで終わるのです。

私は、この本を読んでとても感動しました。

一番気に入ったのは、普通、本は主人公がいて、主人公の敵対者がいるのに、「ヴァイツキー・エンジェル」では、振り回されるジエイドもかわいそうに思えるし、死んでしまったヴァイツキーもかわいそうに思えるところで、二人とも気持ち理解できて、どつちが悪いのか言えないのが、とても独特で、読者はストーリーに本当に惹かれること間違いなしだと思いました。

それ以降、ジャクリーン・ウイルソンさんが書いた本はたくさん楽しんで読みました。これからも、いろいろな友達にこの作者をすすめたいと思います。

読書は、この本のおかげで、好きになることができたし、学校でも、「本を読んだいなさい」とか先生に言われても、昔のように苦勞しなくなるようになりました。国語の成績も上がって、本当にためになりました。

また、その夏、本を読みなさいと言ったお

